

エージェント・ゴールド・イメージを使用したOMAソフトウェアの (Oracle Management Agent) のインストールの方法

≡ 「エージェント・ゴールド・イメージ」ファイルの作成と配布

≡ データベース管理のために OMA が使用するファイルの配布

参考資料

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm

「エージェント・ゴールド・イメージ」ファイルとは、

別紙を参照のこと

配布用管理エージェント (OMA) ・ソフトウェアの入手 ←

別紙を参照のこと

『エージェント・ゴールド・イメージ』の作成と配布について

作成するために事前準備するファイル

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm

6.2.2.4 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用してスタン
ドアロン管理エージェントをインストールするための管理エージェント・
ソフトウェア前提条件を満たす より

管理するデータベースのホストのプラットフォーム OS に合わせた管理エー
ジェント・ソフトウェアを事前にダウンロードしておく必要がある

プラットフォーム OS 別となるファイル

管理エージェント・ソフトウェアは、動作するプラットフォーム OS ごとに異なるため、ダウンロードが必要な管理エージェント・ソフトウェアは管理対象データベースを**動かす OS の全種類分**を準備する必要がある

6.2.2.4.1 オンライン・モードでの管理エージェント・ソフトウェアの取得を参考にして、「管理エージェント・ソフトウェア」を手動でダウンロードしておく

例外) **OMS** がデプロイされているプラットフォーム OS とは**同一のプラットフォーム OS** で、管理エージェントが動作する場合には、すでにダウンロードされているので、手動でのエージェント・ソフトウェアのダウンロードは不要です

たとえば、OMS がデプロイされているプラットフォームが **Linux x86-64** の場合、OMS ホストで **Linux x86-64** プラットフォーム用の管理エージェント・ソフトウェアは自動で準備されているので、手動でのダウンロードは不必要である

データベース作成時の EMCC への登録について

Database Configuration Assistant - 'orcl2'データベースを作成します - ステップ10/15

管理オプションの指定

データベースの管理オプションを指定します。

Enterprise Manager (EM) Database Expressの構成(C)

EM Database Expressポート(E): 5500

Enterprise Manager (EM) Cloud Controlへの登録(R)

OMSホスト(O):

OMSポート(M):

EM管理ユーザー名(U):

EM管理パスワード(P):

新規にデータベースを作成するときに、EMCC へ登録する場合には、データベースを「拡張構成」で作成し、その作成手順のステップ 10 で、登録する先の EMCC サーバーを指定すれば、作成中のデータベースが登録される

この画面で EMCC へ登録できるのは、管理対象データベースが稼働しているホストで、OMA ソフトウェア環境の設定が完了していることが必要である

すなわち、2 個目以降のデータベース・インスタンスの追加が対象と考えられる (このことについて記述された資料は、Web で発見出来ず)

エージェント・ゴールド・イメージを使用したOMA (Oracle Management Agent) のインストールの概要手順

1. スタンドアロン Oracle Management Agent のファイル入手
2. スタンドアロン Oracle Management Agent の配布 (インストール)
3. 管理対象データベースを EMCC (Enterprise Management Cloud Control) への登録
4. 「エージェント・ゴールド・イメージ」ファイルの作成とその設定
 - 4-1. エージェント・ゴールド・イメージの作成
 - 4-2. エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンの作成
 - 4-3. エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを現行バージョンとして設定
5. エージェント・ゴールド・イメージを使用した**OMA**ホストへの配布 (インストール)

EMCC コンソールから『ホスト・ターゲットの追加ウィザード』を使用しての

4. 「エージェント・ゴールド・イメージ」ファイルの作成とその設定

ステップ別の詳細手順

ステップ4-1)

【エージェント・ゴールド・イメージの作成】

6.2.3 エージェント・ゴールド・イメージの作成
6.2.3.1 「ゴールド・エージェント・イメージ」ホームページを使用した
エージェント・ゴールド・イメージの作成

手順1.

メニュー「設定」 → 「Cloud Control の管理」 →
「ゴールド・エージェント・イメージ」

手順2.

「すべてのイメージの管理」をクリックする

手順3.

「作成」をクリックする

手順4.

作成するエージェント・ゴールド・イメージ・バージョンに関する指定を行う

- ・使用するゴールド・イメージ名
- ・説明(オプション)
- ・ソース管理エージェントのプラットフォーム OS

※ ソースとしてスタンドアロンの管理エージェントのみを使用し、
セントラル・エージェントは使用しないこと

手順5.

「送信」をクリックする

ステップ4-2)

【エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンの作成】

6.2.4 エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンの作成
6.2.4.1 「ゴールド・エージェント・イメージ」ホームページを使用した
エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンの作成

手順1.

メニュー「設定」 → 「Cloud Control の管理」 →
「ゴールド・エージェント・イメージ」

手順2.

前ページで作成したエージェント・ゴールド・イメージの名前をクリックする

手順3.

「イメージ・バージョンおよびサブスクリプションの管理」をクリックする

手順4.

【バージョンとドラフト】タブを選択し、「アクション」メニューから「作成」
を選択する

手順5.

必要に応じて、イメージ・バージョン名およびイメージ・バージョンの説明を
入力する

※ イメージ・バージョン名の文字数制限は 20 文字

[入力値の意味説明]

イメージ・バージョンを作成し、これを使用して管理エージェントを更新す
ると、Enterprise Manager Cloud Control では、ここで指定したイメージ・
バージョン名を使用して、更新対象の管理エージェントのエージェント・ベー
ス・ディレクトリ内にサブディレクトリが作成される

例)

更新対象の管理エージェントのエージェント・ベース・ディレクトリ :

/u01/software/em13c/agentbasedir

エージェント・ホーム :

/u01/software/em13c/agentbasedir/agent_13.1.0.0.0

この状態で、イメージ・バージョン名として **OPB_BP1** を指定した場合、このイメージ・バージョンを使用して管理エージェントを更新すると、新しいサブディレクトリ

`/u01/software/em13c/agentbasedir/GoldImage_OPB_BP1/agent_13.1.0.0.0` が作成されます

手順5. の続き

【ソース管理エージェントを使用してゴールド・イメージ・バージョンを作成する場合】

「イメージの作成」欄で「ソース・エージェントの選択」を選択し、使用するソース管理エージェントを指定する

[未必須入力項目] 次の項目に対しても指定可能

作業ディレクトリ：エージェント・ゴールド・イメージの作成に使用する必要がある作業ディレクトリ
デフォルトの作業ディレクトリは、
\$AGENT_INSTANCE_HOME/install
750MB の領域が必要

構成プロパティ： エージェント・ゴールド・イメージの作成中に取得する必要がある管理エージェント構成プロパティ
複数あるので、区切り文字は";"
プロパティの名前は、
\$AGENT_INSTANCE_HOME/sysman/config/emd.properties ファイル内に示されている

除外ファイル： エージェント・ゴールド・イメージの作成中にソース・エージェントのエージェント・ベース・ディレクトリから除外するファイルのリスト
絶対パスでファイル・パスを入力する
2 つ以上のファイルがある場合は、それらをセミコロン(;)で区切る

[注意事項]

既存のゴールド・イメージ・バージョンをインポートしてゴールド・イメージ・バージョンを作成する場合は、「イメージの作成」欄で「イメージのインポート」を選択し、インポートするゴールド・イメージ・バージョンの場所を指定する

イメージをインポートするためには、そのイメージがすでにステージングされている必要がある

この目的でイメージをまだステージングしていない場合は、『Oracle Enterprise Manager Cloud Control アドバンスド・インストレーションおよび構成ガイド』の説明に従ってイメージをステージングする

手順 7.

「OK」をクリックする

[実行内容の説明]

この操作で、エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを作成するジョブが、**Enterprise Manager** ジョブ・システムに発行される

このジョブのステータスは、ゴールド・エージェント・イメージ・アクティビティ・ページのイメージ・アクティビティ・タブで表示できる

完了になれば、エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンが作成されている

ステップ4-3)

【エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを現行バージョンとして設定】

6.2.5 特定のエージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを現行バージョンとして設定
6.2.5.1 「ゴールド・エージェント・イメージ」ホームページを使用して特定のエージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを現行バージョンとして設定

手順1.

メニュー「設定」 → 「Cloud Control の管理」 → 「ゴールド・エージェント・イメージ」

手順2.

必要なエージェント・ゴールド・イメージの名前をクリックする

手順3.

「イメージ・バージョンおよびサブスクリプションの管理」をクリックする

手順4.

[バージョンとドラフト] タブを選択する

現在のバージョンとして設定するゴールド・イメージ・バージョン (ステップ4-2で作成したもの) を選択して、「現行バージョンの設定」をクリックする

[実行内容の説明]

この操作で、エージェント・ゴールド・イメージのドラフト・バージョンを現行バージョンに昇格するジョブが、Enterprise Manager ジョブ・システムに発行される

このジョブのステータスは、ゴールド・エージェント・イメージ・アクティビティ・ページのイメージ・アクティビティ・タブで表示できる

完了になれば、管理エージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを、デプロイメントに使用できる現行バージョンとしての設定が完了している

5. エージェント・ゴールド・イメージを使用した

OMAホストへのインストール (ファイルの配布)

≡ 作成した「エージェント・ゴールド・イメージ」ファイルの配布方法

6.2.6	エージェント・ゴールド・イメージを使用した管理エージェントのインストール
6.2.6.1	ホスト・ターゲットの追加ウィザードによるエージェント・ゴールド・イメージを使用した管理エージェントのインストール

~~ファイルの配布については、管理対象データベースを EMCC へ登録することにより、初回の付随ファイルの配布が行われる~~

~~また、この登録により付随ファイルの更新データについては、スケジューリングを使って自動配布が行われる~~

~~よって、ファイル配布の明示的な手動操作は無い~~

手順 1.

	[設定] [ヘルプ] [ユーザー] [ログアウト]	
Oracle Enterprise Manager Cloud [グリッド] [Enterprise] [ターゲット]	お気に入り▶ ターゲット追加▶ エージェント	自動検出の設定 自動検出の結果
Oracle インスタンス [Oracle データベース] [パフォーマンス]	アップグレードタスク▶ 拡張性▶ プロキシ設定 セキュリティ▶ インシデント▶ 通知▶ クラウド▶ プロビジョニング▶ My Oracle サポート▶ ミドルウェア サービスとリポジトリ▶ 管理パック▶	ターゲットの手動追加▶ グループ作成 管理権限グループ 一般システム 冗長化システム 一般サービス

メニュー・「設定 (Set up)」 → 「ターゲットの追加 (Add Target)」
→ 「ターゲットの手動追加 (Add Target Manually)」

手順 2.

「ホスト・ターゲットの追加」画面が表示される

ターゲットの手動追加 (Add Targets Manually)
説明 (Instruction)

ターゲットの手動追加 (Add Targets Manually)

ホストにエージェントをインストール (Add Host Targets)

. (Add Non-Host Target Using Gurided Process)

. (Add Non-Host Target by Specifying Target Monitoring Properties)

ここで、「 ホストにエージェントをインストール (Add Host Targets)」を選択し、
「」をクリックする

手順3.

「ホスト・ターゲットの追加：ホストとプラットフォーム」画面が表示される
以下の項目を入力する

- ・セッション名
セッション名とは、別の設定を行うときにこの名前のセッションを呼び出して、
同一の入力値の手間を省くために使用するために付ける一意の名前である
よって、適当な名前を付けても構わない
- ・オプション
「ゴールド・イメージ付き」を選択する
- ・イメージ名
使用するゴールド・イメージを選択する
- ・イメージ・バージョン
使用するゴールド・イメージのバージョンを選択する

ターゲットの追加

ホスト・ターゲットの追加: ホストとプラットフォーム

セッション名:

オプション: | ▼

イメージ名: | ▼

イメージ・バージョン: | ▼

| ▼ Platform | ▼

Host	Platform
<input type="button" value="+ 手動"/>	
<input type="button" value="p"/> ファイルから	
<input type="button" value="☰"/> ホストを発見	

次に、「追加」メニューから「手動」を選んでクリックして、ホスト情報が表示され
ているリストに、新規入力用の行を追加する
次ページを参考に、ホストに関する項目を入力する

すべての OMA ホストの追加入力が完了したら、「次へ」をクリックする

新規入力用の行が表示されたら、

+Add ▼		×Remove	Platform Dirrerent for Each host ▼
	Host	Platform	
	DBserver 1 .Localdomain.com	Linux x86-64	
	DBserver 2 .Localdomain.com	Windows x86-64	
▼	Server00.localdomain.com	Windows x86-64	 ▼

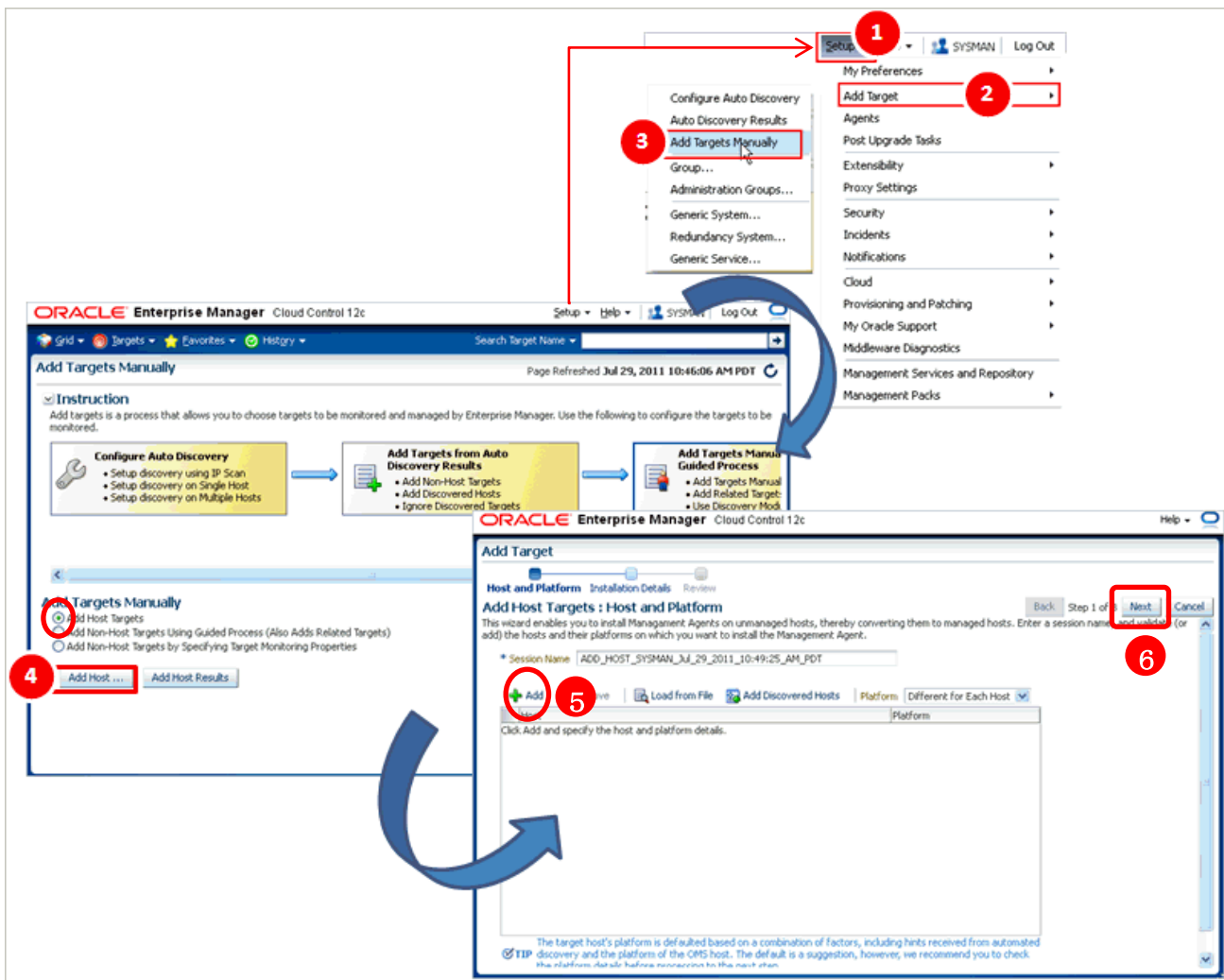
管理エージェントをインストールする OMA ホストに関して以下の項目を入力して、ターゲット・ホストを追加する

- ・ホスト名：**Server00.localdomain.com** のように対象ホスト全体を表す完全修飾されたホスト名
- ・プラットフォーム：ホストのプラットフォーム OS

※ ホスト名にアンダースコア("_")は、使用できない

※ プラットフォーム名の後に「エージェント・ソフトウェア使用不可」とある場合、そのプラットフォームのソフトウェアが OMS へダウンロードされていないことを意味する

画面遷移



メニュー・「**1** 設定 (Set up)」 → 「**2** ターゲットの追加 (Add Target)」
→ 「**3** ターゲットの手動追加 (Add Target Manually)」

「ターゲットの手動追加 (Add Target Manually)」の画面で、

「 ホストにエージェントをインストール」 (Add Host Targets)」

を選択し、「**4** ホストに追加 (Add Host . . .)」をクリック

「**5** 追加ターゲット (Add Target)」の画面が表示されるので、「追加 (Add)」ボタンをクリックして、管理対象となる Oracle データベースのホスト情報を入力する

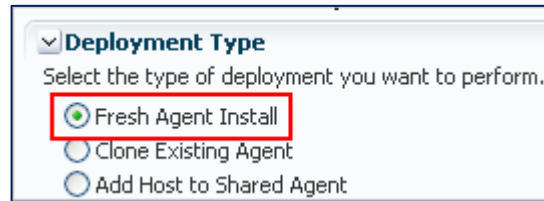
選択が終わったら、「**6** 次へ (Next)」ボタンをクリックする

手順 4.

「インストールの詳細」ページが表示される

ここで以下の入力を行い、入力が出来たら「次へ」をクリックする

- ・デプロイメント・タイプに、「新規エージェント・インストール」を選択する



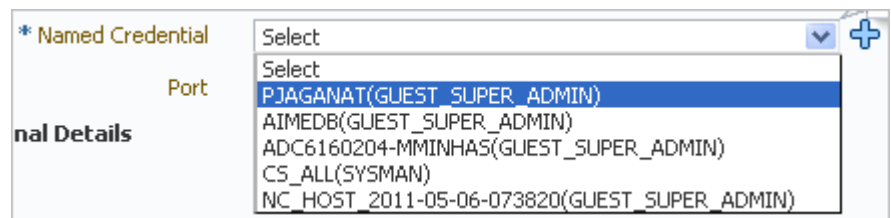
Deployment Type
Select the type of deployment you want to perform.

- Fresh Agent Install
- Clone Existing Agent
- Add Host to Shared Agent

- ・表から、共通のプラットフォーム名でグループ化されたホストを示す**最初の行**を**選択**

【インストールの詳細セクション】では、選択したホストの行に対して、インストール処理を行うための条件設定を行う

- ・インストールのベース・ディレクトリ
管理エージェントのソフトウェアをコピーする (エージェント・ベース・) ディレクトリへの絶対パスを入力
例: /u01/software/em13c/agentbasedir/
- ・インスタンス・ディレクトリ
管理エージェント関連の**構成ファイル**を格納するディレクトリへの絶対パスを入力
デフォルトのインスタンス・ディレクトリの場所のままでも可
例: /u01/software/em13c/agentbasedir/agent_inst
- ・名前付き資格証明
OMA ホストへインストールするために使用する SSH 接続の**資格証明プロファイル**を選択



* Named Credential

Select

Port

nal Details

- Select
- PJAGANAT(GUEST_SUPER_ADMIN)
- AIMEDB(GUEST_SUPER_ADMIN)
- ADC6160204-MMINHAS(GUEST_SUPER_ADMIN)
- CS_ALL(SYSMAN)
- NC_HOST_2011-05-06-073820(GUEST_SUPER_ADMIN)

- ・権限委任設定
ルート・スクリプトの実行に使用する権限委任設定を指定
フィールドを空白のままにしておくと、ウィザードでは root スクリプトが実行されないため、**インストール後に手動で実行する必要がある**
使用出来る権限委任設定値

```
/usr/bin/sudo -u %RUNAS% %COMMAND%
```

```
/usr/bin/sudo -u -S %RUNAS% %COMMAND% (if a pseudo terminal is required for remote command execution via SSH)
```

```
/usr/bin/sesu - %RUNAS% -c "%COMMAND%"  
/usr/bin/pbrun %PROFILE% -u %RUNAS% %COMMAND%  
/usr/bin/su - %RUNAS% -c "%COMMAND%"
```

- ポート
管理エージェントとの通信用に割り当てるポート番号を指定
デフォルトのポート番号は、3872
- 「オプションの詳細」セクション
実行するインストール前スクリプトおよびインストール後スクリプトへの絶対パスを指定

※ スクリプトを root として実行するには、「Root として実行」を選択
スクリプトが、インストール先ホストには無く OMS が実行されているホスト上に有る場合、「OMS のスクリプト」を選択
- 追加パラメータ
インストール時に渡す追加パラメータの空白区切りのリストで入力
サポートされている追加パラメータのリストは、表 6-2 を参照

表にあるすべての行（ホスト）に対して、入力を繰り返して行う

すべての入力が完了したら、「次へ」をクリックする

手順 5.

「確認ページ」が表示される

ここで入力された内容に間違いがないか確認を行い、インストールを行うためには、「エージェントのデプロイ」をクリックする

これにより、管理エージェントのインストールが開始される

そして、デプロイメント・セッションの進捗を監視できる「ホスト・ステータスの追加」ページに自動的に遷移される

- すべてのホストへの「ホスト・ターゲットの追加」ウィザードの進行状況の詳細を表示し追跡するには、
メニュー「設定」 → 「ターゲットの追加」 → 「ターゲットの手動追加」
「ターゲットの手動追加」画面で、
「エージェントのインストール結果」をクリック

【特定のインストール・フェーズが失敗したか警告が表示された場合】

「ホスト・ステータスの追加」ページのエージェント・デプロイ詳細セクションにある各フェーズに関する詳細を確認し、次のうちの1つを実行する

注意： 失敗の原因を調査するには、ログ・ファイルを確認する

ホストごとにログ・ファイルが1つ生成されるため、複数のホストに管理エージェントをインストールする場合には、すべてのログ・ファイルの確認が必要となる

ログ・ファイルへのアクセス方法は、『Oracle Enterprise Manager Cloud Control アドバンスド・インストールおよび構成ガイド』を参照のこと

「ホスト・ステータスの追加」ページとは、前ページで「エージェントのデプロイ」をクリックした後に、デプロイの進捗を監視するために自動で遷移させられるページ

エラー内容を確認し原因が究明できた場合

→ ・インストール詳細が**同じ**である管理エージェントのデプロイを再試行する
「ホスト・ステータスの追加」ページで、「再試行」をクリックして、「同じインプットを使用して再試行」を選択する

→ ・インストール詳細が**変更**された管理エージェントのデプロイを再試行する
「ホスト・ステータスの追加」ページで、「再試行」をクリックして、「インプットを更新して再試行」を選択する

警告または失敗を無視して、セッションを続行する場合

→ ・チェックを正常にクリアしたリモート・ホストのみで管理エージェントのデプロイを続行するし、警告または失敗のステータスを持つホストは処理を中止する
「ホスト・ステータスの追加」ページで、「続行」をクリックして、「失敗したホストを無視して続行」を選択する

→ ・警告または失敗のステータスを持つホストを含むすべてのホストで、管理エージェントのデプロイを続行する

「ホスト・ステータスの追加」ページで、「続行」をクリックして、「すべてのホストを続行」を選択する

※ このオプションを選択すると、管理エージェント・インストールを続行するための前提条件が無視されてしまうので、すべての前提条件が満たされていることを手動で確認することが必要である

Oracle Support の支援を得て実行するか、これらのチェックを実行しない場合の影響を十分理解したうえで行うこと

EM CLI を使用したエージェント・ゴールド・イメージを使用した**OMA** (Oracle Management Agent) のインストールの方法については、

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm

- 6.2.3.2 EM CLI を使用したエージェント・ゴールド・イメージの作成
- 6.2.4.2 EM CLI を使用したエージェント・ゴールド・イメージ・バージョンの作成
- 6.2.5.2 EM CLI を使用して特定のエージェント・ゴールド・イメージ・バージョンを現行バージョンとして設定
- 6.2.6.2 EM CLI によるエージェント・ゴールド・イメージを使用した管理エージェントのインストール

マニュアルを参照のこと